

# 学校だより

## ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077

Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6795 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

### 参観授業と緊張感

本日の幼稚園部、小学部1年生の参観授業で前期分が終わります。私はいつも各教室を周り子どもたちの様子を見ているのですが、子どもたちにとって、保護者の学習参観日は特別な日なのだと思います。



そこで、通常の授業の様子から観て特別な子どもたちの様子の一端を列挙します。

- ① 子どもの姿勢がよい。
- ② しっかりと先生の顔を見て話を聞いている。
- ③ 無駄口や私語が少ない。
- ④ カバンなどが散乱していない。
- ⑤ 低学年であるほど挙手をして発言しようとする。
- ⑥ 学習作業に集中している。
- ⑦ ピーンと張り詰めた緊張感がある。

子どもたちも緊張するのですから、当然、先生方もそれなりに緊張感をもって授業に臨むことになります。その様子も少しだけ列挙します。

- ① いつもより格好良い身だしなみ。
- ② 何とかして一人一人の良さを見せたいと工夫。
- ③ 授業研究を十分にしている授業展開。
- ④ 掲示物にも一段と力が入っている。
- ⑤ 今年からの新しい先生はやはり緊張感は大。
- ⑥ ベテランはベテランなりに余裕か。
- ⑦ 発問の適当性や難易度にもっと工夫と反省。



次は保護者の方々の様子です。

- ① 先生の発問後、目はすぐにわが子の反応伺い。
- ② わが子の挙手に「分かっていたか！」と一安心。
- ③ 先生の指名に「上手に答えよ！」の祈りを捧ぐ。
- ④ 正答を見て、「わが息子、わが娘よくやった！」。
- ⑤ わが子の記録をしっかり残そう皆カメラマン。

わが子の成長を確認できたときほどうれしいものはありません。心に残るほめ言葉を贈ってください。

### 1分間スピーチ

升谷 直緒 (宗吉学級)

私は中学校に入るととても新鮮だと思った数学について話します。

小学校では算数を学習していました。足し算、引き算、掛け算、割り算、小数、図形、分数などです。ゼロが最初の数で、ゼロより下の数はありませんでした。

けれど、中学校に入るともっと難しいマイナスやプラス、正の数、負の数が出てきて中学の数学が始まりました。算数とちがいで、数学の教科書には新しい記号や方程式が加えられ、問題を解いていくのが楽しそうだと思います。

小学生のころ、私はばくぜんとして中学の数学は難しいと思っていました。でも、現地校で六年生になった時に数学を補習校より早く習ったので、補習校ではなじみやすく感じました。今は数学がとても楽しく、ちょっと難しい問題も解いてみたいと思っています。

これで私の話を終わります。ありがとうございます。

### 中学生活での違い

ヘインズ ポール 聡 (恩田学級)

ぼくは勉強面について話します。なぜなら、それが一番の違いだと思ったからです。

小学部では、授業の進み方もゆっくりで、復習や予習をしなくてもすぐに頭に入る勉強ばかりでした。宿題にも問題に答えるのとかは、書くことがもう決めてある課題のものがたくさんありました。

でも、中学部では違います。中学部では授業もシャキットしていて、大人になった感じがします。具体的に言うと、ぼくはもっと授業に集中できるようになりました。宿題の方でも、複雑な問題がたくさんあり、自分で自由に書ける自分自身のアイデアを紙に描くのが気持ち良いです。皆さんはどうですか。

これでぼくの話を終わります。ありがとうございます。

次ページにこの続きを掲載します。中学生になった感想を1分間に述べたものです。

感想がたくさんある中で、述べることを絞り込み、スピーチの構成を考え、まとめ、伝える、という1分間スピーチです。自己理解や他者理解を深め合う良い授業の試みだと思います。

## 1 分間スピーチ

### 加地 紫苑 (宗吉学級)

私は中学部に入って格好良いと思ったことについて話します。それは自己責任です。

小学部も中学部も「クラス便り」というその週の宿題などを書き入れるものがあります。私が、小学部六年生だったころ、クラス便りは私のクラスの担任の先生が全て作っていました。そのおかげで、私はその週の宿題を忘れずに済みました。しかし、中学部では、その週の日直が全て作ります。クラス便りはクラス全員に配るので、日直は授業が終わった後、各教科の先生にその週の宿題を聞き、間違いのないようにします。

このように、何事も自己責任で取り組むのが中学生と小学生の違いだと気づいた私は、改めて中学生として自覚を持てました。そして、この事は私たちの精神を成長させるために必要な一種の訓練だと思いました。これから少しずつこの訓練に慣れ、格好良い中学生になりたいです。

これで私の話を終わります。ありがとうございました。

## 命令言葉

### 三村智加歩 (恩田学級)

私は中学校に入って少しだけこわいと思った命令言葉について話します。

私が小学校にいた時、宿題の学習帳の問題には「なにになにしましょう。」とか「なにになはなんでしょうか。」といういねいな言葉が使用されていたのですが、中学校の学習帳では、「なにになにせよ。」とか「なにになにを述べよ。」などのあまりていねいではない言葉が使用されていました。最初は、「なにこれ？ 中学校ってこんな聞き方をするの？」とおどろいていましたが、クラスのみんなは、これが普通だという感じでした。なので、みんな大人だな、と思いました。

最初は慣れなかったのでムカつきました。もう少しでいねいな言葉を使ってくれたほうがうれしいと思っていました。けれども、命令言葉を何回か見ると、中学生になったんだなと思って、今はもうその言葉に慣れました。

これで私の話を終わります。ありがとうございました。

日本の学校では朝の会の折に、「昨日あったこと」「この頃思うこと」などについて、1分間スピーチを取り入れている学校があります。学校だけでなく、夕食の時など家族全員でこのスピーチをしますと、家族全員で共通の話題ができ、コミュニケーション能力の育成にも功を奏することになるかと思えます。

もし、実践されまして効果がありましたら教えてください。

## 「生き方在り方」進路指導⑤

### わが子の自己理解を深めるには

私の初任は小学校でした。それも、3年生、4年生の担任でした。この学年はすごいエネルギーを持っています。ギャングエイジとも言われることがあるくらいです。どんなことにでも興味関心がわき出て来る時でもあります。その位に生命力に溢れていると言えます。この行動力の旺盛なときに、自己理解を深めさせるには、やはり、日記を書いたり、本を読んだりすることだと思えます。

クラス全員が日記を書いて毎朝私に提出するのです。私は提出された日記を読み、私の感想も加え、終礼時に返却するのです。日記の中には、お父様やお母様の一言も書き加えられているものも多くありました。まさに、子どもと保護者と教師の三者による交換日記なのです。私は児童理解・保護者理解、子どもは保護者理解・先生理解、保護者はわが子理解・先生理解と三つ巴に組んでの教育実践でした。子どもは自分自身で気付かなかった自分をこの交換日記で発見することになるのです。とても思い出に残る実践でした。

### 【お知らせとお願い】

- ① 急な遅刻・早退・欠席の届けは、各学級担任にメールか電話で連絡してください。学校要覧5ページをご参照ください。よろしくお願ひいたします。
- ② 新型インフルエンザにご留意。手洗い、うがい、出来るだけ人混みを避ける等々、ご注意ください。
- ③ 一時帰国など予定されている方は出国2週間前までに届をご提出ください。また、日本での体験入学の希望者には該当校への依頼状も添えます。届け書は学級担任を経由して事務にご提出ください。

## ◆パトロール当番予定表 5月30日◆

～よろしくお願ひします～

	学年	順位	児童生徒氏名
★AM1リーダー	小4	18	ミトラ 健
2		19	ベイシンガー伽羅
3		20	立石優莉亜
4		21	山田有希子
5		22	ワイスマンジョセフ龍
6		23	中村瑞季
7		25	織田恭輔
★PM1リーダー	小4	26	佐藤沙彩
2		27	岡部莉子
3		28	大原拓海
4		35	寺田 裕
5		36	原 慶洋郎
6		1	尾崎友哉
7		2	川瀬直輝
転出 (5/23)	小1 A		山本あにか ちゃん
転入 (5/23)	小6 A		吉保孝高 くん